

## 第1部 序論

総合計画の策定にあたって  
前期基本計画の検証

## ● 総合計画の策定にあたって

### 1 計画策定の趣旨

平成17年2月の合併により「白山市」が誕生した後、平成18年12月に第1次総合計画「白山みらい創造プラン」（計画期間：平成19～28年度）を策定、平成29年3月には第2次総合計画を策定し、市民一人ひとりが生涯を通じて心身ともに「健康」で活躍し、まち全体が「笑顔」あふれる、「人が元気」「自然が元気」「産業が元気」な白山市の実現を目指してきました。

前期基本計画の計画期間が終了を迎えるにあたり、この5年間に生じた社会・経済環境の変化及び前期の検証を踏まえ、より実効性の高い計画を推進し、「健康で笑顔あふれる元気都市白山」の実現に向け、基本計画を見直す必要があります。

令和2年国勢調査では、本市の人口が微増となる一方で白山ろく地域の減少に歯止めがかからない状況であり、また反面、白山手取川ジオパーク、白山ユネスコエコパークをはじめ、多くの観光資源は白山ろく地域に集中しています。

世界的に気候変動の改善が注目される中、白山ろく地域は、温室効果ガスを吸収し、カーボンニュートラルによる脱炭素社会の実現を目指すために必要な森林の多くを有している地域でもあり、私たちの生活にとっても、人と自然の調和を図りながら持続可能な生活環境を維持する対策を講じることが大切です。

後期基本計画の策定においては、これまでも重点的に取り組んでいる人口減少や少子高齢化対策はもちろんのこと、大規模災害や集中豪雨などの自然災害の頻発化・激甚化や世界的に感染拡大が続く新型コロナウイルス感染症等への対応による安全・安心な暮らしの確保が重要となります。

さらに、持続的な都市づくりに向けたSDGsの取り組みや脱炭素社会の構築をはじめ、多様性・多文化などの共生のまちづくりに向けた取り組みやデジタル化の推進による生活の利便性の向上など、様々な課題への対策が求められています。

このような目まぐるしく変化する社会経済情勢に的確に対応するとともに、未だに収束が見えない新型コロナウイルス感染症による社会的ダメージの克服とウィズコロナ・アフターコロナにつなげることで、本市が目指す将来像の実現に向け、市民をはじめ、本市に関わる全ての人と行政が協働と連携によるまちづくりを進めるための総合的かつ計画的な指針として、後期基本計画を策定するものです。

## 2 計画の期間と構成

### (1) 計画の期間

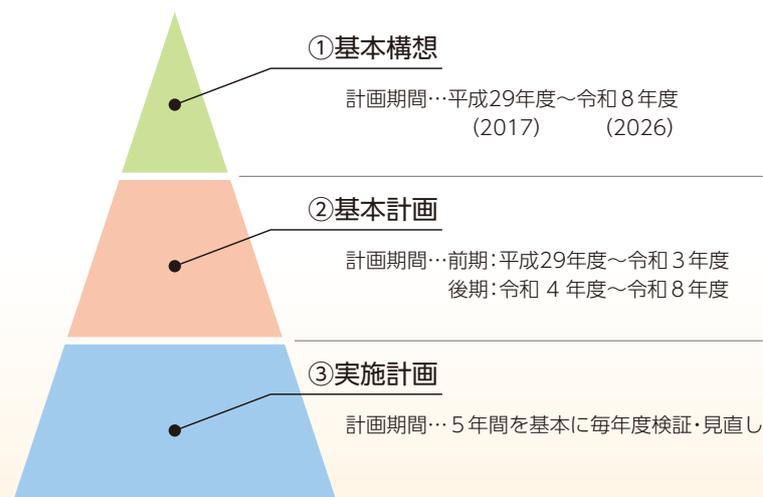
総合計画の期間は、令和4(2022)年度から令和8(2026)年度までの5年間とします。

### (2) 計画の構成

総合計画は、基本構想と基本計画で構成します。また、基本計画に伴う中期的な事業計画を実施計画として別に定めます。

- ① 基本構想は、まちづくりの基本理念と目指す将来都市像を掲げ、その実現のためのまちづくりの目標を示すものです。
- ② 基本計画は、基本構想で示したまちづくりの目標を実現するための施策の方向性を具体化し、各分野別の施策を体系的に示すものです。
- ③ 実施計画は、基本計画で示した施策を受け、特に主要な事業について中期的な事業計画を別に策定し、予算編成や事業執行の指針とするものです。

【計画の構成】



## ● 前期基本計画の検証

### 1 社会情勢の変化への対応

#### (1) 子育て環境の充実と人生100年時代に対応したまちづくりの推進

国では、平成20(2008)年の1億2,800万人をピークとして人口が減少に転じ、令和3(2021)年10月には約1億2,500万人となっています。特に、出生数は平成27(2015)年の100万人から令和2(2020)年には84万人に減少するなど、長期間にわたり減少し続けており、その結果、子どもだけでなく、現役世代の人口も減少が始まっています。このような状況が続けば、経済の低迷や地域活力の低下等の様々な社会課題となっていくことが懸念されます。そのため、本市においては、子育て環境のさらなる充実に取り組むとともに、移住・定住の促進、関係人口の拡大、地域活性化に向けた取り組みの推進が重要です。

一方、医療分野の技術革新や健康意識の高まりなどから、男女ともに平均寿命が延び続けており、「人生100年時代」が現実のものとなりつつあります。100年という長い期間をより豊かに、充実したものとしていくためには、健康寿命の延伸を図るとともに、高齢者から若者まで、誰もが元気に活躍し続けられる社会をつくることが重要です。

#### (2) SDGsを踏まえたまちづくりの推進

SDGs(Sustainable Development Goals:持続可能な開発目標)は、平成27(2015)年9月の国連サミットで採択された、地球上の誰一人として取り残さない社会の実現を目指すための世界共通の行動目標であり、17のゴールと169のターゲットから構成されています。

国においても、令和2(2020)年に「持続可能な開発目標アクションプラン2020」を決定するとともに、その実現に向けて、国や地方自治体、各種団体、企業等の様々な主体が連携し、一体的に取り組むこととしています。

本市では、平成30(2018)年にSDGsの達成に向けた取り組みを実践する「SDGs未来都市」に選定されており、白山ろく地域を拠点とし、産学官民連携のもと、環境に調和した持続可能な経済発展や豊かな生活を実現し、その成果を市全体に還元するサイクルの確立に向けた取り組みを推進することが重要です。

#### (3) 多様性を活かしたまちづくりの推進

少子高齢化に伴う労働力不足、育児や介護との両立、外国人住民の増加等に伴い、ライフスタイルや価値観の多様化が進み、市民ニーズも多様化・複雑化しています。

そのため、誰もが豊かさを実感できる、成熟したまちづくりを進めるためには、異なる文化や価値観を理解し、ともに助け合いながら、多種多様な個性や特性等の能力を活用し、新たな価値創出や課題解決につなげていくことが必要です。

本市においても、性別、年齢、国籍、障害等の属性に関わらず、誰もが個々の考え方や価値観が理解・受容され、安心して元気に暮らせる社会・地域づくりが求められます。また、住民

をはじめとした各種団体や企業等と行政が協働し、多様化する課題解決に向けた取り組みを進めることが重要です。

#### (4) 脱炭素社会や循環型社会の実現に向けたまちづくりの推進

地球温暖化による気候変動や海洋プラスチックごみ汚染、生物多様性の喪失など、環境問題が世界的な危機として大きな課題となり、経済や社会活動にも大きな影響を与えています。

気候変動問題では、2020年にパリ協定の運用が本格的に開始されたほか、国では、2050年までに温室効果ガスの排出をゼロにする「脱炭素社会の実現」を目指し、様々な分野で取り組みが進められています。

本市においても、再生可能エネルギーをはじめ、新たなエネルギー環境の構築とともに、ごみの減量化・資源化等の5R（リフューズ [発生抑制]、リデュース [排出抑制]、リユース [再使用]、リサイクル [再生利用]、ルール [決まり]）の取り組みをさらに広げ、豊かな自然環境に磨きをかけて次世代へ引き継ぐことが重要です。

#### (5) 様々な災害や感染症等に強い安全・安心なまちづくりの推進

近年、国内では、地球温暖化の影響に伴う局地的な大雨や台風などによる甚大な災害が多く発生しています。また、従来から発生が予測されている南海トラフ地震といった巨大地震や火山噴火などの自然災害だけでなく、世界的な大流行となった新型コロナウイルス感染症等の感染拡大から市民の生命や財産を守り、安全・安心に暮らすことができるまちづくりが求められています。

本市においても、防災インフラ等のハード面の対策とともに、自助・共助・公助の適切な役割分担のもと、平常時から災害に備えるソフト面の対策、災害復旧を見据えたまちづくりなど、幅広い視点での減災・防災対策を進めることが重要です。

また、広域化・深刻化する鳥獣被害に対し、地域ぐるみでの対策や複数市町村が連携した広域的な対策等を総合的に進め、被害防止に取り組む必要があります。



## (6) 科学技術の急速な進展に対応したまちづくりの推進

情報通信ネットワークの発達やIoT、AI等の第4次産業革命とも呼ばれるイノベーションは、先端技術を活用した生産性の向上等のほか、雇用や働き方の改革など、社会や経済に大きな影響を与えています。

国では、これらの技術を活用し、人口減少時代における諸課題の解決の手段として「デジタル化」の実現を目指すとともに、人々の生活をよりよいものへと変革させるDX（デジタルトランスフォーメーション）の推進に向けた取り組みが展開されています。

本市においては、行政サービスにおけるデジタル技術やAI等の活用による、市民の利便性向上や業務の効率化を図り、行政サービスのさらなる向上につなげていくことが必要です。また、これらの技術を活用して、あらゆる分野において、横断的な視点を持ち、イノベーションによる新たな価値の創出を図るとともに、社会的な課題の解決に取り組むことが重要です。

## (7) 新しい生活様式への対応

2020年より世界に広がった新型コロナウイルス感染症は、医療や健康だけでなく、移動制限やサプライチェーンの寸断等による経済の停滞、外出自粛や行動変容など、社会や地域、個人の価値観や暮らしに大きな影響と変化をもたらしました。

今後、感染リスクと共生する社会においては、感染予防の徹底とともに、リモートワークやワーケーションといった新たな働き方や、地元や近隣で観光するマイクロツーリズムなど、新たな価値観や暮らし方・働き方に対応した、地域経済の回復に向けた取り組みが求められます。

本市においては、海・川・山の豊かな自然と文化に育まれた地域固有の資源に対する誇りや愛着を深め、新たな魅力を付加し、多様な情報発信による活用を進めることが重要です。

## (8) 社会資本の老朽化への対応と行財政基盤の強化

高度経済成長期に整備された多くの社会資本（道路・橋りょうや上下水道、公園など）は、近年その老朽化が深刻な問題となっており、各自治体にとっては財政面などで大きな負担となっています。また、人口減少・少子高齢化が進む中で、社会保障費の増大など、多額な財政需要が見込まれています。

本市においては、公共施設等の更新や長寿命化を行い、利活用を含めた適正な施設管理を進めるとともに、行政資源の効率的かつ効果的な運用や歳出改革及び新たな財源確保により、健全財政を維持し、足腰の強い財政運営を進める必要があります。

## 2 前期基本計画の施策の進捗状況

### (1) 重点プロジェクトの達成状況

第2次白山市総合計画では、今後の10年先を見据えた視点から、各章を横断した重点的な施策として、3つの重点プロジェクトを設定しており、重点プロジェクトごとに定めた令和8(2026)年度の目標値に対する達成状況は、次のとおりです。

#### 健康・笑顔・元気プロジェクト ①

#### 11万人の市民が活躍する「健康」プロジェクト

「総人口」や「社会増減数」は目標の達成に向け順調に推移しているほか、合計特殊出生率も計画策定時よりも上昇しており、子育て支援や移住・定住対策等の人口の維持・増加に向けた各種施策の効果が表れています。

指 標	計画策定時	実 績				目 標 値 (R8)
		H29	H30	R元	R2	
総人口(人)	109,287 (H27)	109,904	110,197	110,188	110,408	109,000
合計特殊出生率	1.49 (H26)	1.59	1.56	1.58	—	1.70
人口の社会増減数 (人/年)	▲44 (H23-H27平均)	+509	+511	+198	+312	+140 (R4-R8平均)

### 前期基本計画での主な取り組み

#### ■白山市ウォーキングマップの作成

平成30年に作成したウォーキングマップの一部を見直し、さらなるウォーキングの普及・啓発を図るため、市内の魅力あるウォーキングコースについて広く市民から公募し、コースの安全性や歩きやすさ、景観などを審査し、新たに4つのコースを選定し、全9コースを紹介しています。



白山市ウォーキングマップII

#### ■オンライン移住相談の推進

移住相談を行うにあたり、市役所に来庁できない人なども気軽に相談し、具体的なイメージを持てるよう、令和2年度からオンラインによる移住相談窓口を開設しました。また、移住希望先の様子を伝える手段として、令和3年度からは現地からのライブ中継を実施しています。



オンライン移住相談  
とライブ中継



健康・笑顔・元気プロジェクト ②

協働・連携でつくる「笑顔」プロジェクト

協働・連携の推進に向けた、「世代間・地域間交流事業参加者数」や「大学との連携事業数」は本計画に基づき着実に実績を残してきましたが、令和2年はコロナ禍のため事業等の実施が困難となり減少しています。今後は、新しい生活様式に即した協働・連携のあり方を考える必要があります。

指 標	計画策定時	実 績				目 標 値 (R8)
		H29	H30	R元	R2	
世代間・地域間交流事業参加者数(人/年)	9,195 (H27)	9,273	8,645	8,476	1,737	10,000
大学との連携事業数(件/年)	37 (H27)	47	57	65	29	55

前期基本計画での主な取り組み

■ 市民提案型によるまちづくりの推進

平成28年度から市民参加による活力あるまちづくりを推進するため、市民団体等が提案して自主的に実施する地域の活性化や魅力向上に向けた事業に対して補助金を交付しています。これまでに各地区で個性のあるまちづくり事業が進められています。



海岸保全活動（美川松林を守る会）

■ 災害に備えた情報伝達手段の充実

市民に迅速に災害情報を伝えるため、平成29年度には、白山市メール配信サービスの配信内容の拡充（警報等の気象情報を自動配信するサービスの追加）や、令和元年度から2年度にかけて防災行政無線戸別受信機の無償配布を進めました。



防災訓練の様子（山島地区）

## 健康・笑顔・元気プロジェクト ③

## まちの魅力と価値を高める「元気」プロジェクト

「市内従業者数」は増加傾向にあると想定される一方、「観光入込客数」や「市内宿泊客数」は減少傾向が続いており、さらにコロナ禍で大幅に減少しています。今後は、地域の魅力をさらに磨き、新たな技術を活かしながら、ウィズコロナ、アフターコロナにおける観光・交流の推進が求められています。

指 標	計画策定時	実 績				目 標 値 (R8)
		H29	H30	R元	R2	
市内従業者数(人)	53,673 (H26)	(54,992) (H28経済センサス)	—	—	—	56,000
観光入込客数 (万人/年)	518 (H27)	499	485	430	329	560
うち市内宿泊客数 (人/年)	247,074 (H27)	216,342	222,424	212,710	107,314	269,000

## 前期基本計画での主な取り組み

■ユネスコ世界ジオパーク認定に向けた  
推進活動

世界認定に向け活動を推進している白山手取川ジオパークでは、ツーリズムの促進による持続可能な地域活性化を図るため、市観光連盟との連携によるジオパーク公認観光ガイド養成講座の実施や新たに日本語及び英語版の見どころマップの製作を行いました。



ジオパーク公認観光ガイド養成講座

■商業振興に向けた白山市地域応援券の  
配布

新型コロナウイルス感染症により大きな影響を受けた地域経済の回復を目的に、全市民に対し、1人当たり2千円分の商品券を配付し、市民の家計の支援と地元事業者への支援を行うことで、地域における消費の拡大を推進しました。



地域応援券の利用



### 3 基本計画の目標値の達成状況

第2次白山市総合計画のまちづくりの目標の達成状況（令和2年度末時点）は、約半数が目標値を達成または8割以上達成となっていますが、コロナ禍の影響により、市民生活・環境分野や、観光・文化分野で未達成となる項目が多くなっています。今後は、市内外の多様な交流の促進や循環型社会への対応が求められています。

（単位：件（%））

まちづくりの目標	指標数	目標値の達成状況		
		目標値を達成	8割以上を達成	8割未満
①誰もが健康でいきいきと暮らし続けられるまちづくり <span style="color: green;">健康・福祉</span>	26	11 (42.3)	7 (26.9)	8 (30.8)
②地域ぐるみで豊かな心と体を育み健康で活躍できるまちづくり <span style="color: blue;">教育・スポーツ</span>	25	4 (16.0)	3 (12.0)	18 (72.0)
③人と地域の交流で笑顔が生まれる市民主体のまちづくり <span style="color: orange;">市民生活</span>	15	3 (20.0)	3 (20.0)	9 (60.0)
④市民の暮らしを支える快適で笑顔あふれる安全なまちづくり <span style="color: purple;">都市基盤</span>	26	10 (38.5)	9 (34.6)	7 (26.9)
⑤賑わいと活力がみなぎる元気なまちづくり <span style="color: red;">産 業</span>	12	5 (41.7)	4 (33.3)	3 (25.0)
⑥自然・歴史・文化と人が交わり元気に輝くまちづくり <span style="color: blue;">観光・文化</span>	24	3 (12.5)	5 (20.8)	16 (66.7)
⑦市民の信頼に応えるまちづくり <span style="color: brown;">行財政</span>	8	5 (62.5)	2 (25.0)	1 (12.5)
全 体	136	41 (30.1)	33 (24.3)	62 (45.6)

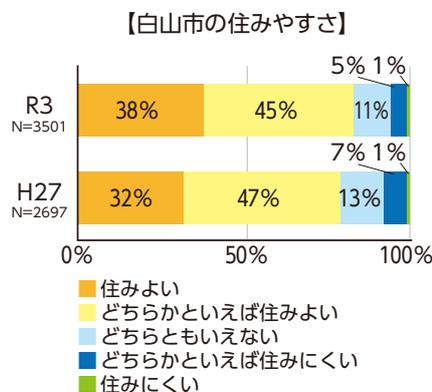
## 4 市民アンケート結果

### (1) 調査概要

- ・調査対象：白山市在住の15～80歳の方々から無作為抽出した10,000名
- ・調査方法：郵送による配布・回収（Webでの回答も可）
- ・調査期間：令和3年6月23日～7月12日まで
- ・回収数：3,590通（回収率35.9%）※うち482通がWeb回答（全回答の13%）

### (2) 白山市の住みやすさ

- ・「住みよい」「どちらかといえば住みよい」が合わせて83%を占め、H27年に比べその割合が上昇しています。
- ・住みよい理由では「自然環境がよい(58%)」、「災害が少ない(50%)」、「生活環境がよい(33%)」が高い割合を占めています。
- ・住みにくい理由では、「交通の便が悪い(70%)」が最も高く、次いで「商業施設が充実していない(52%)」、「公共施設が充実していない(23%)」が高い割合を占めています。

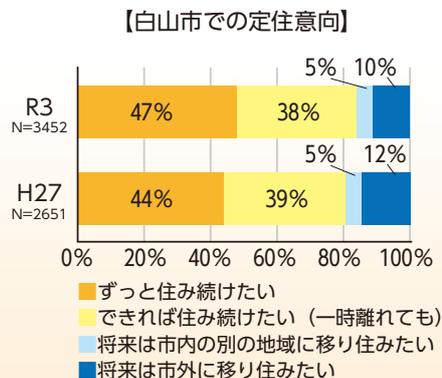


【白山市の住みよい理由、住みにくい理由】（上位5位：複数回答）

住みよい理由		住みにくい理由	
自然環境がよい	58%	交通の便が悪い	70%
災害が少ない	50%	商業施設が充実していない	52%
生活環境がよい(騒音や振動などが少ない)	33%	公共施設が充実していない	23%
治安がよい	18%	働く場所がない	22%
交通の便がよい 地元の食材がおいしい	17%	医療・福祉制度が充実していない	14%

### (3) 白山市での定住意向

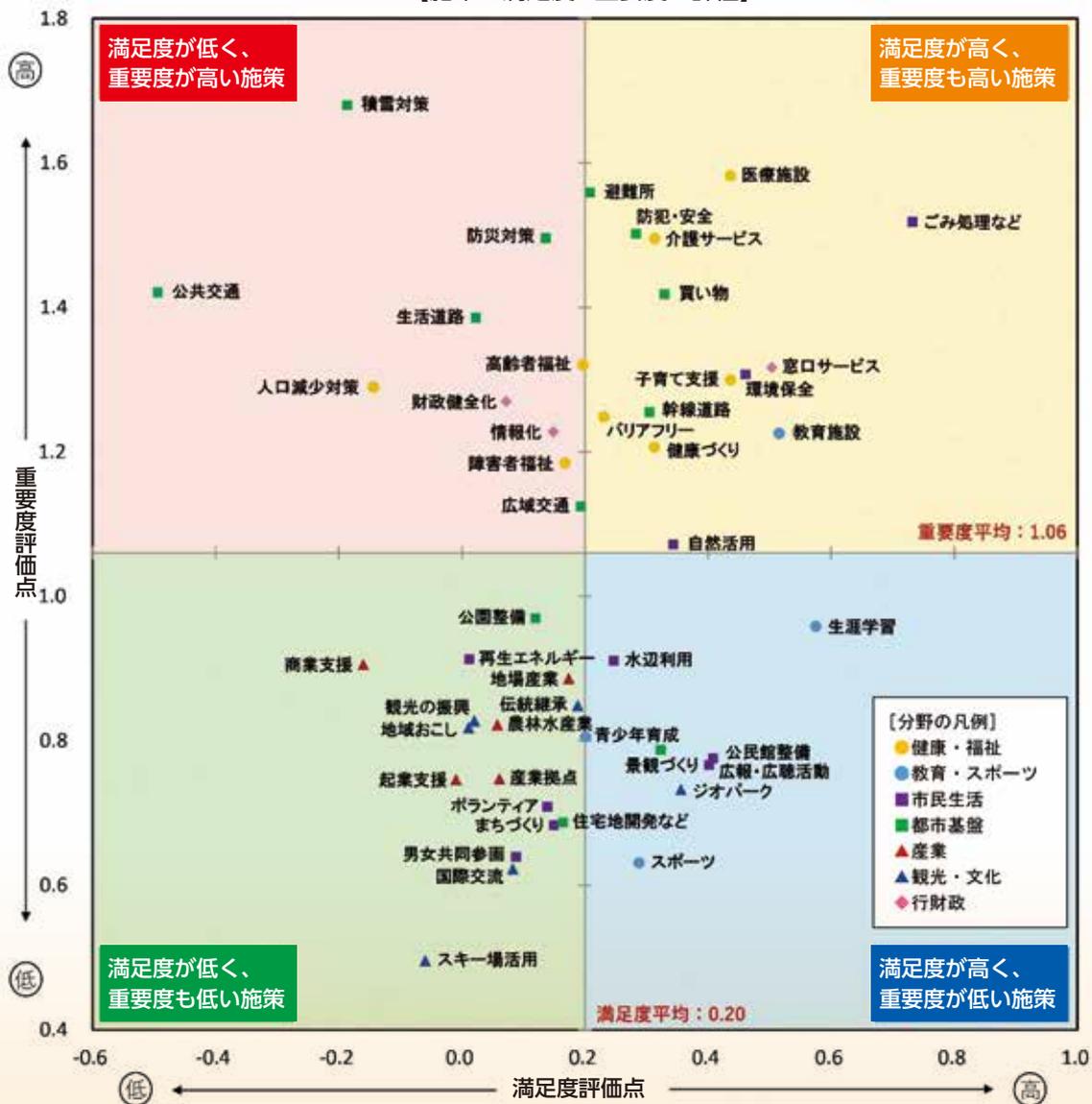
- ・「ずっと住み続けたい」「できれば住み続けたい(一時離れても)」が合わせて85%を占め、H27年に比べその割合が上昇しています。
- ・将来は市外に移り住みたい理由としては、「交通の便が悪い(34%)」、「(施設面などで)不便(13%)」などがあげられています。



#### (4) 施策の満足度・重要度の評価 (全48施策)

- 重点的に取り組みを進めてきた子育て支援や健康づくり、防災・安全等は、満足度・重要度ともに高く、必要性や意義、事業の内容が市民と共有できていると考えられます。
- 一方、人口減少対策、公共交通や生活道路の整備等については、満足度が低く、重要度が高いため、今後も継続的な取り組みが求められています。
- また、地域課題の解決に向け重要な役割を担う市民協働やボランティア活動、多様性を尊重する共生社会づくりに向けた国際交流や男女共同参画等は、満足度・重要度がともに低調であることから、必要性や考え方について広く周知していくことが必要です。

【施策の満足度・重要度の評価】



満足度と重要度は、下記の計算式に基づき点数を与え評価点を算出(無回答は除外)

満足度評価点=(満足×(2点)+やや満足×(1点)+やや不満×(-1点)+不満×(-2点)+わからない×(0点))÷回答者数

重要度評価点=(重要×(2点)+やや重要×(1点)+あまり重要でない×(-1点)+重要でない×(-2点)+わからない×(0点))÷回答者数